

1. 建学の精神

専門知識（学問）、技術（実習）、そして人間尊重（心）を兼備し、社会に貢献する人材の育成

2. 大学の目的

リハビリテーション医学・医療・福祉・保健を研究開発するとともに、高度な専門知識・理論及び応用を教授し、その成果を人間尊重の観点から広く応用できる 21 世紀にふさわしい人材の育成を目的としている。

3. 具体的な人材育成方針

対象者の理想を医学的・社会的見地に立って実現するために、傾聴と高いコミュニケーション能力をもってそれを理解し（傾聴とコミュニケーション）、自身が会得した最新の専門知識と技術に自信と誇りを持ち（自負）、対象者のためにそれを全力で活用するために、探求と創造の姿勢を持ち（創造）、対象者のために自身は何ができるのかを真摯に考える共感と献身の態度（献身・共感）を備えた人材を育成する。

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

本専攻が目指すところは、本学の人材育成方針に則り社会に求められる臨床家、理学療法士を育成するところにあり、その具体的な要件を示す。

- (1) 理学療法士国家試験に合格できる知識及び思考力・判断力を習得している（専門知識・技術）
- (2) 理学療法士として臨床的問題解決に必要な知識・技能、思考力・判断力を身につけている（専門知識・技術）
- (3) 理学療法士として対象者のために自身は何ができるのかを全力で真摯に考える態度、すなわち献身的、共感的態度が備わっている（献身・共感）
- (4) 理学療法士として探究と創造の姿勢を持ち、自ら学び、学ぶ意義を対象者の中に見出すことができる（自負・創造）
- (5) 対象者の問題解決に向けて、必要に応じて多様な人々と主体性を持って協働して学ぼうとする態度とコミュニケーションスキルを身につけている（傾聴とコミュニケーション）

5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

ディプロマポリシーに示された要件を満たす理学療法士を育成するため、履修系統図に示すような段階的、階層的学びを可能とするカリキュラム編成とする。

- (1) 知識や技能の習得にあたっては段階的・階層的に学べる編成とする（DP1、2）
編成の実際は教育課程に示すとおりであり、教授に当たっては反転学習やジグソー法といった学習を促す教育技法を取り入れる。
- (2) 実習や演習を講義科目と連携できるように配置し、知識と技術の統合を促す実学重視の科目配置とする（DP1、2）

- (3) 段階的、階層的カリキュラムの履修にあたっては、次段階までに必要な知識・技術を十分に修得し次段階にステップアップできるように配慮する (DP1、2)
適宜個人々の修得状況を把握し (学修履歴や学修計画の確認と助言)、個別の修得度に応じた、また年次進行に応じた学修支援体制を導入する。
- (4) それぞれの科目がなぜ理学療法学の習得に必要なのかを明確にして教授する (DP1、2)
カリキュラムの意図を学生自らが理解し学位取得に到達できるように、各科目が理学療法学を学ぶにあたってなぜ必要なのかを明確に示し教授する。
- (5) 学外での臨床実習にあたっては段階的な学びの機会となるように配慮する (DP1、2)
実習目標のみでなく、指導者についても帯同教員による指導を主とした体制に始まり、学外の指導者を中心とした指導体制に移行するような段階的編成とする。
- (6) 本専攻が目指す人材を育成するためには、国家試験に合格し資格を有することが前提となるが、各科目においては早期より国家試験を意識した授業展開とする (DP1)
- (7) 自らの学びを促すためアクティブラーニングの機会を適宜設ける (DP4)
自らが希望する施設の見学や社会貢献活動への参画など適宜学外での自主活動の機会を提供する。
- (8) 主体性を持って多様な人々と協働し学ぶ態度を育むため、早期よりグループ学習や学年を超えた学習の機会を設ける (DP3、5)

※DPとは、ディプロマポリシーを示す。

6. 入学者受入れの方針 (アドミッションポリシー)

ディプロマポリシーを満たし学位を取得するために必要な入学者受け入れ要件を示す。

- (1) リハビリテーションや理学療法の対象となる人々の健康や生活、疾病や障がいに関心を持っている人
- (2) 自身が目指そうとする進路や職業を理解しようと行動できる人
- (3) 相手の主張や気持ちを受け止め、理解するための基本的な注意や応答ができる人
- (4) 自らの主張や意見を表出できる人
- (5) 自律した生活を送るための思考力、判断力を有し、自身の役割や責任を果たすことができる人
- (6) 理学療法士に必要な知識や技術を学ぶための基本的な能力を有している人
 - 1) 授業内容を習得できる学習のための基礎的能力 (読み、書き、聴く、まとめる)
 - 2) 従来の学習経験から習得した一定の学力 (知識・思考力)
- (7) 理学療法士に必要な知識、技能の習得に際して、主体性をもって計画・行動し、努力を惜しまない態度・姿勢を有している人 (自主性・積極性)
- (8) 主体性を持って多様な人々と協働し学ぶ態度を有している人
- (9) 理学療法士として生涯にわたって自己研鑽し、社会や健康増進に貢献しようとする強い意志を持っている人 (自らの選択と持続性)